

# 2019 年度 事業報告書

2019. 4 ~ 2020. 3

公益財団法人 神経研究所

公益財団法人 神経研究所  
事業報告書  
(2019年度)

1. 理事会・評議員会の主な決議・承認・報告事項

2019年6月4日(水) 定時理事会

- (1) 平成30年度事業報告の審議及び承認
- (2) 平成30年度決算報告及び監査報告の審議及び承認
- (3) 公益認定等委員会からの通知[府益第696号]に関する報告書の承認
- (4) 任期満了する理事 高橋清久氏、井上雄一氏の再任を定時評議委員会へ推薦することを決議
- (5) 任期満了する監事 碓井憲男氏の再任を定時評議委員会へ推薦することを決議
- (6) 倫理審査委員会謝金規定に迅速審査手当を新設することを承認
- (7) 運転資金の借り入れ先について、諸条件を総合的に判断して決定することを承認
- (8) 定時評議員会の招集及び開催について

2019年6月26日(木) 定時評議員会

- (1) 平成30年度事業報告の審議及び承認
- (2) 平成30年度決算報告及び監査報告の審議及び承認
- (3) 公益認定等委員会からの通知[府益第696号]に関する報告書の承認
- (4) 理事会より再任推薦の理事 高橋清久氏、井上雄一氏の再任を承認
- (5) 理事会より再任推薦の監事 碓井憲男氏の再任を承認
- (6) 倫理審査委員会謝金規定に迅速審査手当を新設することを承認
- (7) 運転資金の借り入れ先について、諸条件を総合的に判断して決定することを承認

2020年3月5日(火) 定時理事会

- (1) 2020年度事業計画(案)の審議及び承認
- (2) 2020年度収支予算書(案)の審議及び承認
- (3) 2020年度資金調達及び設備投資の見込みについて審議及び承認
- (4) 2019年度長期借入資金調達先を商工中金に変更することについて審議及び承認
- (5) 就業規則の一部変更について審議及び承認
- (6) 治験審査委員会設置者変更及び定款の変更について審議及び承認
- (7) 評議員会の招集及び開催について

2020年3月25日(水) 評議員会

- (1) 2020年度事業計画(案)の審議及び承認
- (2) 2020年度収支予算書(案)の審議及び差し戻し
- (3) 2020年度資金調達及び設備投資の見込みについて審議及び承認
- (4) 2019年度長期借入資金調達先を商工中金に変更することについて審議及び承認
- (5) 就業規則の一部変更について審議及び承認
- (6) 治験審査委員会設置者変更及び定款の変更について審議及び承認

2020年3月25日(水) 臨時理事会

- (1) 2020年度収支予算書(案)の再審議及び承認

(1) 附属晴和病院

1. 概況

<入院>

2019年度の入院診療は、前年度後半からの患者減少が継続し、医療収入も比例して減少した。しかし、新規の入院患者数は前年とほぼ同数を維持していることから、長期入院患者の減少が大きく影響している。このことは平均在院日数の短縮からも見て取れる。また、終夜睡眠検査入院数の増加などもその一因と言える。一昨年からはアスペルガー症候群などの発達障害を対象とする、2週間の検査入院に加え、3週間のコースを新設したことは在院日数の短縮に貢献していると思われる。

収支に関しては医療経費、人件費他前年度経費実績を5千万円程度圧縮したが、入院収入の落ち込みをカバーするまでには至らなかった。経費は大きく改善していることから、一日平均入院患者数を前年並みに戻すことで、安定した収支均衡が実現すると考える。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
延べ患者人数	38,038	32,294	31,606	27,644	25,163
平均在院患者	103.9	88.5	86.6	74.5	68.8
平均在院日数(3月末)	78	68	73	61	57
平均単価	18,301	17,542	18,574	19,288	18,909

<外来>

外来に関しては引き続き堅調に推移している。平成26年以来一貫して受診患者総数は上昇し医療収入もほぼ同様である。主な要因はかつて当院がわが国の中心であった睡眠障害診療を復活させたことと、新しく発達障害診療を開始したことによる。外来担当医師の交代や産休による一時休診などによって、2019年度はやや受診患者総数を減少させたが、医療収入には大幅な減収には至っていない。

受診患者の内訳についての十分な解析はしていないが、初診患者の半分以上を睡眠障害と発達障害が占めるようになってきている。統合失調症の占める割合は都内の精神科クリニックではかなり小さくなって、うつ病や神経症圏の患者が中心を占めるようになって久しい。しかし、当院では入院のための初診患者を差し引くと、そういった患者層の受診は漸減傾向が続いている。総数としてはもちろん大きいのであるが、都内ではクリニックが圧倒的に増えてきており、よほどの特徴を持たない限りは大きな増加は望めないように思われる。

最近では、発達障害の中でもADHDの一部の例では、睡眠障害の一種である過眠症を合併することがわかってきた。発達障害と睡眠障害と対象を異にしてそれぞれ独立してスタートした外来であるが、両者が協働して精神科医療の隠れたニーズを掘り当てたということができるよう思う。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
延べ患者人数	30,563	32,389	33,231	33,456	33,000
新患人数	900	1,138	830	861	805
平均人数	114.2	119.5	122.6	124.8	122.2
平均単価	6,110	6,050	5,888	5,762	5,840

### <デイケア>

デイケアの受け入れ人数はこれまで飛躍的に増え、平成 26 年度に大規模デイケアの算定を獲得し、平成 29 年度には現在の建物床面積では受け入れが難しい状況となっていた。平成 30 年 4 月の診療報酬改定による小規模ショートケアの新設により、デイケアからショートケアへの移動が多くみられ、下記の表にも顕著に表れている。発達障害は小規模ショートケア参加が多く、反面大規模ショートケアの減少に対策を講じたい。また、併せて生活支援などのデイケアへの誘導は引き続き重要である。平成 29 年度末に卒業し激減したリワークの新規参加者も徐々に増加傾向にある。リワークは平日のフル参加が前提であり、実数に比べて算定回数が増えやすいという事情が関係するが引き続き検討を要する課題である。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
ショート・ケア算定回数	2,201	2,601	2,857	3,672	3,177
デイケア算定回数	2,958	3,406	4,064	2,575	2,591

### <作業療法>

作業療法に関しては、平成 28 年度以降大きく落ち込んでいる。これは、ここ数年、産休や退職などの理由で、作業療法士 2 名の定員枠が充足されず、充足されても一時的であり、積極的な運用ができなかったことと、入院患者数、特に長期入院患者数が減少していることが背景にある。

平成 30 年度終盤に作業療法士を 1 名採用し、2 名体制を作り、31 年度で算定人数の改善傾向にあったが、再び、作業療法士が退職し、厳しい状況が続いた。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
作業療法算定人数	7,930	4,995	4,463	3,053	3,492

### <看護部>

今年度も年間を通し精神科入院基本料 15 : 1、看護補助者加算 30 : 1 の要件を年間を通じ満たすことができた。長期入院患者の退院支援により地域移行加算への貢献も行えた。

従来気分障害圏の入院患者が半数以上を占めていたが、発達障害、睡眠障害を持つ患者が専門外来の患者数の増加に伴い入院患者における割合も増加してきた。そのため医師をはじめ臨床心理課、医療相談室等との連携により専門性のある精神科看護を提供できたと思える。来年度は引き続き多職種連携の強化と接遇の向上に努めていく。

## 2. 実習の受け入れ

### 1. 医局

- ・総合東京病院 2019年7月(1名)、9月(1名)計2名  
(教育担当者:小田医師)

### 2. 医療相談室

- ・高崎医療福祉カレッジ:2019年10月(1名)
- ・日本福祉教育専門学校:2020年2月(1名)

### 3. 心理室

- ・跡見学園女子大学:2019年5月~7月(1名)、10月~12月(1名)計2名
- ・駒沢女子大学:2019年10月~2020年3月(1名)
- ・人間総合科学大学大学院:2019年10月~2020年3月(2名)
- ・東京女子大学大学院:2019年5月~9月(2名)、11月~2020年3月(1名)計3名
- ・聖心女子大学大学院:2019年4月~9月、10月~2020年3月(各期間1名ずつ、計2名)
- ・昭和女子大学大学院:2019年4月~9月、10月~2020年3月(各期間1名ずつ、計2名)
- ・帝京大学大学院:2019年4月~9月(1名)
- ・帝京平成大学大学院:2019年5月~12月(1名)

### 4. 看護部

- ・東京衛生学園専門学校 看護学科 二年課程:2019年5月~6月(病棟2クール計8名)
- ・東京工科大学医療保健学部看護学科:2019年9月~11月(病棟4クール14名、デイケア4クール17名・合計31名)
- ・板橋中央看護専門学校 三年課程:2020年1月~2月(デイケア2クール計5名)

## 3. 監査、立ち入り検査など

- ・2019年12月4日 東京都福祉保健局  
精神保健及び精神障害者福祉に関する法律  
第38条の6の規定に基づく実地指導

## (2) 附属睡眠呼吸障害クリニック

睡眠呼吸障害クリニックは平成 11 年 11 月にわが国で最初に開設したクリニック形式の睡眠医療診療専用施設である。日本睡眠学会の認定医療機関でもあり、主に睡眠呼吸障害、睡眠時無呼吸症候群の診療をしている。他にナルコレプシーなどの過眠症、レム睡眠行動障害、周期性四肢運動障害、レストレスレッグス症候群などの睡眠障害も診療できる体制を整えている。

睡眠時無呼吸症候群は睡眠中の呼吸停止により睡眠の質の低下をきたし、日常生活に多大な影響を与えるのみならず、心血管系、代謝内分泌系への悪影響もある。高血圧、心不全、不整脈、動脈硬化の進行による心筋梗塞・脳梗塞、糖尿病などの罹患率・死亡率が増加することが疫学調査により分かっている。いわゆる生活習慣病と密接な関連がある病態であり睡眠呼吸障害の診療は予防医学の見地からも重要であると考えている。

当クリニックは睡眠医学を専門とする医師、検査技師による診療体制を整えている。患者のみならず他の医療機関からも評価されており、大学病院をはじめとする総合病院、医院などから多くの患者が紹介されている。

呼吸器内科、精神科、耳鼻咽喉科を専攻する医師で診療を行い、科をまたがる病態にも対応できる体制をとっている。

従来は睡眠呼吸障害を主に診療していたが、睡眠呼吸障害以外の過眠症、睡眠時随伴症などの診療希望も多くなっているため、これらの疾患も積極的に診療している。

最近是一般の病院、医院などで睡眠時無呼吸症候群の簡易検査が容易に施行可能になっているが、正確な診断と的確な治療をするためには終夜睡眠ポリグラフ検査(PSG)が必要である。当クリニックでは最新式の睡眠ポリグラフィソムノスターシステムによる PSG を多数施行している。

治療は主に持続陽圧呼吸療法(CPAP)を用いている。CPAP の治療患者数は日本有数の多さである。

睡眠時無呼吸症候群は高い有病率があるにもかかわらず、未検査・未治療の患者がいまだに多いため、医療関係者・一般の人々に対する啓発活動もおこなう。

過眠症に対しては睡眠潜時反復検査(MSLT)が診断に必須であり、当クリニックでも睡眠潜時反復検査を施行している。新規の患者が多く今後は過眠症の患者の比率の増加が予測される。

### 【31 年度の診療実績】

- ・外来患者数 月間 2,040 名、年間延べ 24,500 名
- ・睡眠時無呼吸症候群の持続陽圧呼吸(CPAP)治療患者数 月平均約 2,000 名
- ・PSG 検査(CPAP 導入のための検査も含む) 月平均約 44 名

### (3)精神神経科学センター

#### I 助成事業

##### 1 研究助成課題等選考委員会（書面）

開催回数：2回（2019年5月29日（水）、2019年8月28日（水））

##### 1) 調査研究等助成（公募）

2019年5月29日開催時の申請件数は、調査研究4件、研究集会等5件

###### 調査研究3件

- ①申請者 竹形 みずき（北村メンタルヘルス研究所）  
課題名「妊娠期の病的な出産恐怖感（Tokophobia）に関する精神科診断学的検討」
- ②申請者 柳下 聡介（NCNP 神経研究所 疾病研究第五部）  
課題名「睡眠時無呼吸症候群が認知症の発症に与える影響の解析とその予防法の探索」
- ③申請者 Benjamin J. E. Raveney（NCNP 神経研究所 免疫研究部）  
課題名「"Characterization of pathogenic cell populations in neuroinflammation during secondary progressive multiple sclerosis"  
(和文)「二次進行型多発性硬化症の神経炎症に関わる病原性細胞群の機能解析」認知行動療法の持つ治療効果の神経科学的基盤を解明する：グラフ理論に基づく大脳皮質構造解析を応用した介入研究」

###### 研究集会等4件

- ①申請者 埜中 征哉（NCNP 病院）  
集会名「第18回 アジア・オセアニア筋疾患センター 年次集会」
- ②申請者 西野 一三（NCNP メディカル・ゲノムセンター ゲノム診療開発部）  
集会名「筋病理セミナー」
- ③申請者 高橋 祐二（NCNP 病院 脳神経内科）  
集会名「第15回 NCNP 神経内科短期臨床研修セミナー」
- ④申請者 山村 隆（NCNP 神経研究所）  
集会名「NCNP 国際シンポジウム：神経免疫学研究の進歩」

##### 2) パーキンソン研究助成（指定研究）

2019年8月28日開催時の申請件数は、継続3年目指定研究2件、継続2年目指定研究2件

###### 継続指定研究（3年目）2件

- ①申請者 融 衆太（新渡戸記念中央総合病院 神経内科）  
課題名「神経難病在宅療養者の剖検および病理学的研究の助成」
- ②申請者 齊藤 祐子（NCNP 病院 臨床検査部）  
課題名「精神・神経疾患ブレインバンクの運用とそれを用いた臨床画像病理関連の研究」

###### 継続指定研究（2年目）2件

- ①申請者 野川 茂（東海大学医学部付属八王子病院 神経内科）  
課題名「パーキンソン症候群・認知症の地域医療推進活動」
- ②申請者 赫 寛雄（東京医科大学八王子医療センター 脳神経内科）  
課題名「パーキンソン病、進行性核上性麻痺のすくみ足に対する横歩きリハビリテーションの効果の維持法に関する研究」

【文中のNCNPは、国立精神・神経医療研究センターの略称】

## 2 睡眠健康推進委員会（書面）

開催回数：2回（2019年7月3日（水）、7月10日（水））

### 1) 学術研究助成（公募）

2019年7月10日開催時の申請件数は、9件

#### ①睡眠科学分野1件

申請者 古部 瑛莉子（東邦大学医学部医学科解剖学講座微細形態学）

課題名「リン酸化酵素SIK3による睡眠覚醒制御メカニズムの解明」

#### ②睡眠医学分野1件

申請者 斎藤 かおり（日本大学医学部 精神医学系精神神経科）

課題名「社会的ジェットラグの背景要因と血清脳由来神経栄養因子との関連について」

#### ③睡眠社会学分野1件

申請者 萱場 桃子（公益財団法人神経研究所 睡眠学研究室）

課題名「看護大学生の睡眠実態に関する縦断的検討」

### 2) 学術研究助成（指定研究）

2019年7月3日開催時の申請件数は、新規指定研究1件

申請者 成澤 元（公益財団法人神経研究所 睡眠学研究室）

課題名 児童・思春期の子どもの睡眠健康をはぐくむ睡眠教育プログラムの構築と効果検証

## II 普及啓発事業

### 1 睡眠に関する正しい知識の普及啓発活動

#### 1) 市民公開講座開催回数：3回

東京都：ベルサール九段：2019年9月7日（土） 参加者数250名

秋田県：秋田市文化会館：2020年9月1日（日） 参加者数121名

福岡県：アクロス 福岡：2019年9月7日（土） 参加者数125名

#### 2) 出張市民公開講座開催回数：22回

埼玉県桶川市 桶川市保健センター：2019年6月25日（火） 参加者数40名

和歌山県白浜町日置川 日置川拠点公民館：2019年6月29日（土） 参加者数43名

東京都昭島市 昭島市保健福祉センター「あいぼっく」：2019年7月26日（金） 参加者数30名

千葉県成田市 成田市保健福祉館：2019年8月23日（金） 参加者数30名

千葉県白井市 白井市保健福祉センター：2019年8月25日（日） 参加者数54名

宮城県宮城郡利府町 利府町保健福祉センター：2019年9月30日（月） 参加者数77名

埼玉県児玉郡美里町 美里町コミュニティセンター：2019年9月3日（火）2020年2月21日（金） 参加者数140名

和歌山県田辺市 田辺市民総合センター：2019年9月7日（土） 参加者数58名

愛媛県西条市 西条市総合福祉センター：2019年10月1日（火） 参加者数51名

岡山県倉敷市 倉敷市保健所301：2019年10月21日（月） 参加者数50名

和歌山県和歌山市 和歌山市保健所：2019年10月26日（土） 参加者数71名

埼玉県羽生市 羽生市保健センター：2019年10月4日（金） 参加者数46名

北海道新ひだか町 新ひだか町保健福祉センター：2019年10月5日（土） 参加者数50名

茨城県下妻市 下妻市立図書館：2019年10月6日（日） 参加者数110名



長野県東御市 長野県東御市総合福祉センター：2019年11月15日（金）参加者数29名  
埼玉県北本市 北本市文化センター：2019年11月15日（金）参加者数42名  
栃木県那須塩原市 宇都宮共和大学那須キャンパス：2019年11月9日（土）参加者数76名  
千葉県船橋市 船橋市役所：2020年1月18日（土）参加者数145名  
神奈川県川崎市 川崎市麻生老人福祉センター：2020年1月21日（火）参加者数40名  
岩手県磐井郡平泉町 平泉文化遺産センター：2020年2月12日（水）参加者数120名  
愛知県丹羽郡大口町 健康文化センター：2020年2月6日（木）参加者数35名  
大阪府枚方市 輝きプラザきらら：2020年2月6日（木）参加者数100名

3) 学校訪問型睡眠講座開催回数：58回

鹿児島県 伊仙町立伊仙中学校：2019年5月15日（水）参加者数110名  
愛知県 豊田市立高橋中学校：2019年5月16日（木）参加者数800名  
大阪府 門真市立第五中学校：2019年6月5日（水）参加者数650名  
北海道 学校法人国際学園星槎もみじ中学校：2019年6月10日（月）参加者数250名  
千葉県 芝浦工業大学柏中学校：2019年6月10日（月）参加者数620名  
埼玉県 さいたま市立辻小学校：2019年6月14日（金）参加者数116名  
和歌山県 串本町立串本中学校：2019年6月14日（金）参加者数250名  
岐阜県 美濃市立昭和中学校：2019年6月17日（月）参加者数174名  
大阪府 泉南市立一丘中学校：2019年6月17日（月）参加者数150名  
高知県 本山町立本山小学校：2019年6月18日（火）参加者数50名  
鳥取県 鳥取市立久松小学校：2019年6月19日（水）参加者数224名  
埼玉県 さいたま市立大谷場小学校：2019年6月21日（金）参加者数46名  
東京都 昭和女子大学 現代教育研究所：2019年6月22日（土）参加者数30名  
愛知県 愛西市立草平小学校：2019年7月2日（火）参加者数190名  
栃木県 さくら市立喜連川中学校：2019年7月4日（木）参加者数300名  
栃木県 壬生町立藤井小学校：2019年7月4日（木）参加者数66名  
静岡県 浜松市立浦川小学校：2019年7月5日（金）参加者数53名  
東京都 葛飾区立中青戸小学校：2019年7月6日（土）参加者数710名  
岐阜県 多治見市立市之倉小学校：2019年7月8日（月）参加者数36名  
埼玉県 北本市立北小学校：2019年7月9日（火）参加者数32名  
静岡県 富士宮市立井之頭中学校：2019年7月11日（木）参加者数50名  
山形県 酒田市立松原小学校：2019年7月19日（金）参加者数113名  
山梨県 富士吉田市学校保健研究会：2019年7月31日（水）参加者数15名  
愛知県 東海市学校保健部会（東海市立横須賀小学校）：2019年8月9日（金）参加者数31名  
石川県 金沢市立三谷小学校：2019年8月28日（水）参加者数36名  
長野県 佐久市立望月中学校：2019年8月30日（金）参加者数335名  
大阪府 東大阪市立小阪小学校：2019年9月4日（水）、9月11日（水）、2020年1月15日（水）、1月22日（水）参加者数120名  
東京都 町田市立町田第六小学校：2019年9月12日（木）参加者数33名  
栃木県 那須塩原市立黒磯北中学校：2019年9月17日（火）参加者数363名  
香川県 丸亀市立飯山中学校：2019年9月17日（火）参加者数166名  
熊本県 山鹿市立三岳小学校：2019年9月18日（水）参加者数76名  
群馬県 高崎市立中央小学校：2019年9月26日（木）参加者数132名  
長野県 上田市立東塩田小学校：2019年9月26日（木）参加者数197名

愛知県 豊田市立野見小学校 : 2019年10月2日(水) 参加者数 63名  
福井県 福井市棗小中学校 : 2019年10月10日(木) 参加者数 50名  
徳島県 徳島市川内北小学校 : 2019年10月17日(木) 参加者数 245名  
群馬県 高崎市立北小学校 : 2019年10月23日(水) 参加者数 96名  
神奈川県 藤沢市立高浜中学校 : 2019年10月23日(水) 参加者数 440名  
岐阜県 恵那市立恵那西中学校 : 2019年10月28日(月) 参加者数 386名  
神奈川県 厚木市立南毛利中学校 : 2019年10月31日(木) 参加者数 697名  
石川県 津幡町立条南小学校 : 2019年11月1日(金) 参加者数 519名  
愛知県 豊田市立逢妻中学校 : 2019年11月14日(木) 参加者数 858名  
静岡県 小山町立北郷中学校 : 2019年11月25日(月) 参加者数 153名  
石川県 加賀市立錦城小学校 : 2019年11月27日(水) 参加者数 131名  
群馬県 千代田町立西小学校 : 2019年11月30日(土) 参加者数 109名  
千葉県 船橋市立三山東小学校 : 2019年11月30日(土) 参加者数 366名  
茨城県 結城市立結城南中学校 : 2019年12月3日(火) 参加者数 565名  
三重県 鈴鹿市立玉垣小学校 : 2019年12月3日(火) 参加者数 30名  
長崎県 佐世保市立相浦中学校 : 2019年12月3日(火) 参加者数 500名  
埼玉県 鴻巣市立鴻巣南中学校 : 2019年12月4日(水) 参加者数 400名  
静岡県 御殿場市立原里中学校 : 2019年12月5日(木) 参加者数 461名  
埼玉県 三郷市立瑞穂中学校 : 2019年12月13日(金) 参加者数 450名  
埼玉県 さいたま市立芝川小学校 : 2020年1月30日(木) 参加者数 40名  
宮崎県 西都市立妻北小学校 : 2020年2月5日(水) 参加者数 50名  
三重県 川越町立川越南小学校 : 2020年2月8日(土) 参加者数 165名  
鹿児島県 西之表市学校保健会(西之表市立下西小学校) : 2020年2月12日(水) 参加者数 68名  
三重県 三重県名張市立南中学校 : 2020年2月13日(木) 参加者数 115名  
大阪府 大阪府立生野支援学校 : 2020年2月27日(木) 参加者数 22名

## 2 広報活動

### 1) ニュースレター発行回数 : 2回

No.3 : 2019年8月発行、 No.4 : 2020年2月発行

### 3. 研究部

研究部は臨床精神薬理研究室、睡眠学研究室、発達障害研究室の3部門に分けられる。しかし、臨床精神薬理研究室は臨床試験を行う部門ではあるが、特に独立して精神薬理学を専門にする医師が現在是在籍していないために、睡眠障害と発達障害に関して臨床試験を行う場合にほぼ限られる。そのため臨床試験を行った場合には、それぞれの研究室の記載に含める。2019年度には当該研究はなかった。

睡眠学研究については、別法人である「睡眠総合ケアクリニック代々木」で行っている研究実績を紹介するが、晴和病院でも近年は活発に終夜睡眠や入眠潜時の測定を行っており、今後は研究報告も増えていくことが期待される。

外来部門でも紹介したように、ADHDと過眠症を合併する症例を対象として、メチルフェニデートの薬理学的作用機序を探る研究「注意欠如多動性障害の薬物療法の神経基盤の解明」(主任研究者：高橋英彦東京医科歯科大学教授)が2019年度から採択され、伊東若子医師が分担研究者として今後5年間の研究を行うことになった。これは戦略的国際脳科学研究推進プログラム(略称：国際脳)という大型研究の一部であり、当院での臨床実績が評価されたものといえる。

#### (1) 睡眠学センター

##### 事業報告

##### ① 睡眠相後退障害(DSPD)の重症度評価指標の信頼性と妥当性に関する研究

DSPDは、若年人口の1%以上に存在する概日リズム睡眠障害の代表的疾患であり、社会生活への悪影響が大きいことから、早期診断と重症度評価に応じた治療的方策の立案が必須である。本研究では、双極性障害のDSPTを対象に開発された重症度スケールであるBiological Rhythm Interview of Assessment in Neuropsychiatry(BRIAN)の、双極性障害を有さない原発性DSPDでの重症度評価における有用性を、睡眠総合ケアクリニック受診連続例を対象として検証した。今年度は健常者コントロールとの比較を行った上で、病者群を抽出可能なカットオフ値を作成した。

##### ② AIを用いた閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSAS)の予測に関する研究

OSAS患者、健常者の二次元セファログラム写真を用いて、AIによるOSAS中等症～重症の予測を試みた。結果、感度、特異度ともに80%を上回ることを報告し、現在前方視的なvalidationに着手している。

##### ③ REM睡眠行動障害(RBD)の症状発現を予測するポリソムノグラフィ(PSG)上のREM without atonia(RWA)のカットオフに関する研究

RBDは、欧米では有病率(高齢者人口の1%程度)が高く高頻度に $\alpha$ -synucleinopathyに発展しうることが報告されているが、日本人での症候学的な特性は解明されていない。本研究では、日本人でRBD症状が発現する筋放電消失を伴わないレム睡眠(RWA)量のカットオフ水準を白人でのそれと比較した。結果、日本人でのRBD症状発現の閾値は、白人より低く14%(REM)であることがわかった。これより、RWA量が低めでも $\alpha$ -synucleinopathy移行リスクに注意する必要があることを報告した。

##### ④ 過眠症における生活習慣病の実態とその関連要因に関する研究

ナルコレプシーでは、生活習慣病の有病率が高いことが指摘されているが、日本人患者での実態

は明らかでなく、類縁疾患である特発性過眠症（IHS）との差異は明らかでない。昨年の研究では、オレキシン分泌と密接に関連するナルコレプシータイプ1（NT1）での生活習慣病有病率は、NT2 ないし HIS より顕著に高く、その差は35歳以上で顕在化していた。本年の継続研究において、生活習慣病リスクの上昇にヒト白血球抗原（HLA）DQB1\*0602の陽性、ならびに閉塞性睡眠時無呼吸の罹患（無呼吸低呼吸指数15/時間以上）が関与していることが示され、しかもこの傾向はNT1よりもNT2で顕著であることがわかった。

## (2) 発達障害研究室

成人の自閉症スペクトラム（Autism spectrum disorder; ASD）を主な対象とする専門外来は2013年度に新設し、2018年末までの累計初診患者数はおよそ1800名に達している。専門外来と同時に開いたデイケア（発達障害ショートケアプログラム）も順調に推移している。初年度（2013）と比較すると2016年度にはおよそ4倍に増加した。

発達障害者は入院適応になることは少ないが、心理検査の予約が殺到したために2～3週間の検査入院システムを導入した結果、今では月に2～3人が入院するようになっている。個室を使用することもあって、医療収入の増加と平均在院日数の短縮に大いに貢献している。この検査入院では、専属の臨床心理士がほぼ主治医のように担当するのが特徴である。これは今の診療報酬では心理士が入院患者に対応しても医療費にカウントできないことを踏まえて、差額病室代金をそれに充てるという意図が込められている。検査入院する患者のすべてが発達障害であるはずはもちろん無く、神経症やパーソナリティ障害がむしろ多いのが現状であるが、そういう場合にも高率に外来での心理カウンセリング（特別予約診療費：5000円）に誘導できることは、診療上も病院の特色になっている。

デイケアでは、大学生を対象にした学生プログラムや就活講座を展開して、ひきこもりの防止や自立支援を図っており、徐々に参加学生が増えつつある。研究面でも、「発達障害を有する大学生（中退者、引きこもりを含む）へのショートケアプログラムの開発と包括的支援システムの構築」というAMED（日本医療研究開発機構）事業に2018年度から3年間の計画で満山かおる心理室主任が参加している。

同じく厚生労働科学研究費でも「発達障害診療専門拠点機関の機能の整備と安定的な運営ガイドラインの作成」研究を2018、2019年度に加藤進昌が研究代表者となって行うことができた。この研究は、同じ期間に東京都が行った「成人期発達障害者生活支援モデル事業」を当院が受託したことと対をなすものである。この東京都事業は2020年度にはさらに拡充して、「成人発達障害者に対する診療拠点連携ネットワーク事業」を当院が中心となって行う事業として受託する見込みである。

#### 4. 倫理審査委員会 (2019年4月～2020年3月)

開催回数：2回

(2019年10月21日、2020年3月30日開催)

2019年10月21日開催時の申請件数

##### 1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 8件

- ① 申請者 井上雄一  
第172号-3  
「睡眠障害に起因する社会機能/QOL障害の実態調査」
- ② 申請者 井上雄一  
第175号-2  
「Fitbit (Fitbit, Inc.) が計測する睡眠スコアの妥当性研究」
- ③ 申請者 小林美奈  
第174号-2  
「睡眠障害が及ぼす QOL および労働生産性への影響と治療による変化」
- ④ 申請者 竹内暢  
第178号-2  
「高齢者慢性不眠症における、就寝前遮光による治療効果及びその予測因子の検討」
- ⑤ 申請者 對木悟  
第176号-2  
「閉塞性睡眠時無呼吸に対する AI を活用した診断支援プラットフォームの創出」
- ⑥ 申請者 神田優太  
第131号-2  
「Biological Rhythms Interview of Assessment in Neuropsychiatry (BRIAN) 日本語版の信頼性と妥当性の検討」
- ⑦ 申請者 柳原万里子  
第161号-4  
「レストレスレッグス症候群における中枢神経感作に関する研究」
- ⑧ 申請者 成澤元  
第180号-4  
「児童・思春期の子どもの睡眠健康をはぐくむ包括的睡眠教育の効果検証」

## 2) 新規提出 5件

- ① 申請者 小林美奈  
第 182 号  
「検査版 STOP-Bang 質問紙の有用性の検討」
- ② 申請者 萱場桃子  
第 183 号  
「大学生における睡眠と光曝露に関する研究」
- ③ 申請者 志村哲祥  
第 184 号  
「各種生体指標の日内変動と外部光環境およびメラトニン濃度推移との関連の調査」
- ④ 申請者 武井洋一郎  
第 185 号  
「頭部の回施による閉塞性睡眠時無呼吸症の重症度変化に関する研究」
- ⑤ 申請者 神田優太  
第 186 号  
「自記式 Biological Rhythms Interview of Assessment in Neuropsychiatry (BRIAN) 日本語版による、睡眠・覚醒相後退障害の重症度と社会機能障害の関連性および治療反応の指標の検討」

## 3) 再提出 5件

- ① 申請者 川嶋真紀子  
第 179 号-3  
「成人の発達障害のための検査入院」
- ② 申請者 杉山藍  
第 152 号-5  
「閉塞性睡眠時無呼吸患者の長期経過に伴う睡眠呼吸障害指標の変化とその関連要因に関する研究」
- ③ 申請者 武井洋一郎  
第 163 号-3  
「薄型圧力センサシートを活用した非接触・非拘束式睡眠モニタリングシステムの新規開発」
- ④ 申請者 加藤進昌  
第 168 号-3  
「中枢神経刺激薬による治療的变化の生物学的指標同定」
- ⑤ 申請者 田口杏那  
第 149 号-4  
「成人発達障害における認知的特徴の検討 -成人知能検査を用いて

2020年3月30日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認      5件

①申請者 川嶋真紀子

第179号-4

「成人の発達障害のための検査入院」

②申請者 萱場桃子

第183号-2

「大学生における睡眠と光曝露に関する研究」

③申請者 小林美奈

第182号-2

「検診版 STOP-Bang 質問紙の有用性の検討」

④申請者 加藤進昌

第168号-4

「中枢神経刺激薬による治療的变化の生物学的指標同定」

⑤申請者 小林美奈

第174号-3

「睡眠障害が及ぼす QOL および労働生産性への影響と治療による変化」

2) 新規提出      7件

①申請者 反町絵美

第187号

「発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業」

②申請者 本多真

第188号

「過眠を呈する睡眠障害の病態に関与する遺伝子の探索とその機能および末梢血リンパ球の自己抗原特異的増殖反応の研究」

③申請者 羽澄恵

第189号

「中枢性過眠症における社会適応に即したセルフマネジメントに関する研究」

④申請者 満山かおる

第190号

「精神科病院における心理臨床業務で知り得たデータ解析研究」

⑤申請者 武田俊信

第 191 号

「神経発達症の成人の体験に関する研究」

⑥申請者 武田俊信

第 192 号

「発達障害および定型発達者の心拍所見の簡易心拍計による比較研究」

⑦申請者：松澤 重行

第 193 号

「小児むずむず脚症候群 (Restless legs syndrome; RLS) の重症度尺度開発、重症度と QOL の関連についての研究」

### 3) 再提出 1 件

①申請者 加藤進昌

第 117 号-7

「成人の発達障害に対するショートケアプログラムの効果判定に関する研究」

## 5. 治験審査委員会 (2019 年 4 月～2020 年 2 年 3 月まで)

### 開催回数：7 回

1.	2019 年 4 月 25 日 (木)	継続の可否について	1 件	
2.	2019 年 5 月 23 日 (木)	継続の可否について	0 件	報告事項 1 件
3.	2019 年 6 月 27 日 (木)	継続の可否について	1 件	報告事項 1 件
4.	2019 年 7 月 25 日 (木)	継続の可否について	0 件	報告事項 1 件
5.	2019 年 9 月 26 日 (木)	継続の可否について	1 件	
6.	2019 年 11 月 28 日 (木)	継続の可否について	1 件	
7.	2020 年 2 月 27 日 (木)	継続の不可について	1 件	報告事項 1 件

以上